

テストではなく自身の成長のための学習を促す
鈴木雅之先生(横浜国立大学教育学部 准教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



鈴木 雅之

すずき まさゆき

横浜国立大学 教育学部 准教授

東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。
博士（教育学）。

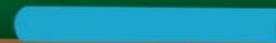
国立情報学研究所特任研究員，昭和女子大学助教等
を経て，2018年より現職。

分担執筆『新・動機づけ研究の最前線』

（北大路書房，2022），

『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』

（北大路書房，2016）など



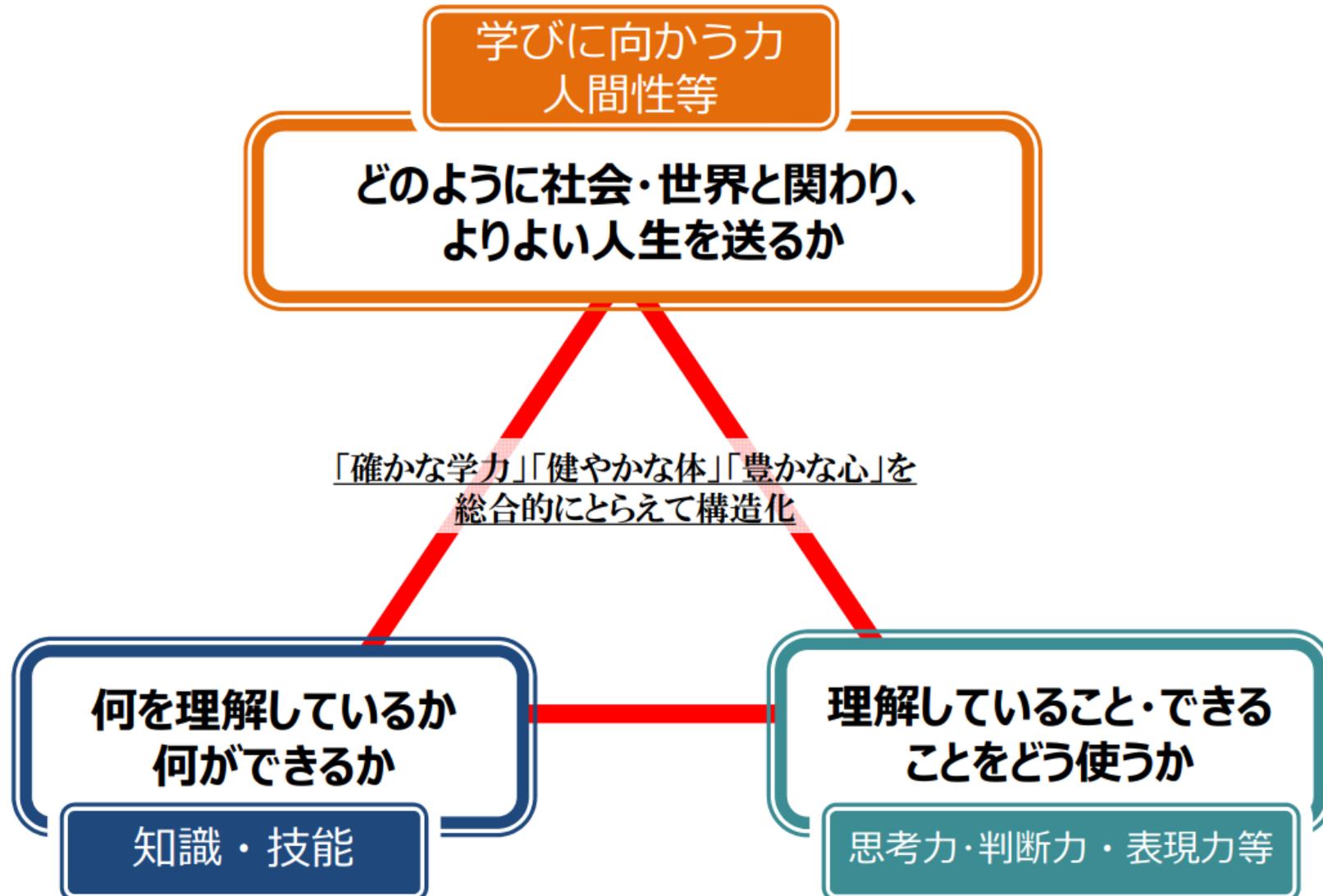
それではご覧ください

テストではなく自身の成長のための
学習を促すためには

鈴木 雅之

(横浜国立大学教育学部)

育成すべき資質・能力の3つの柱



学びに向かう力，人間性等

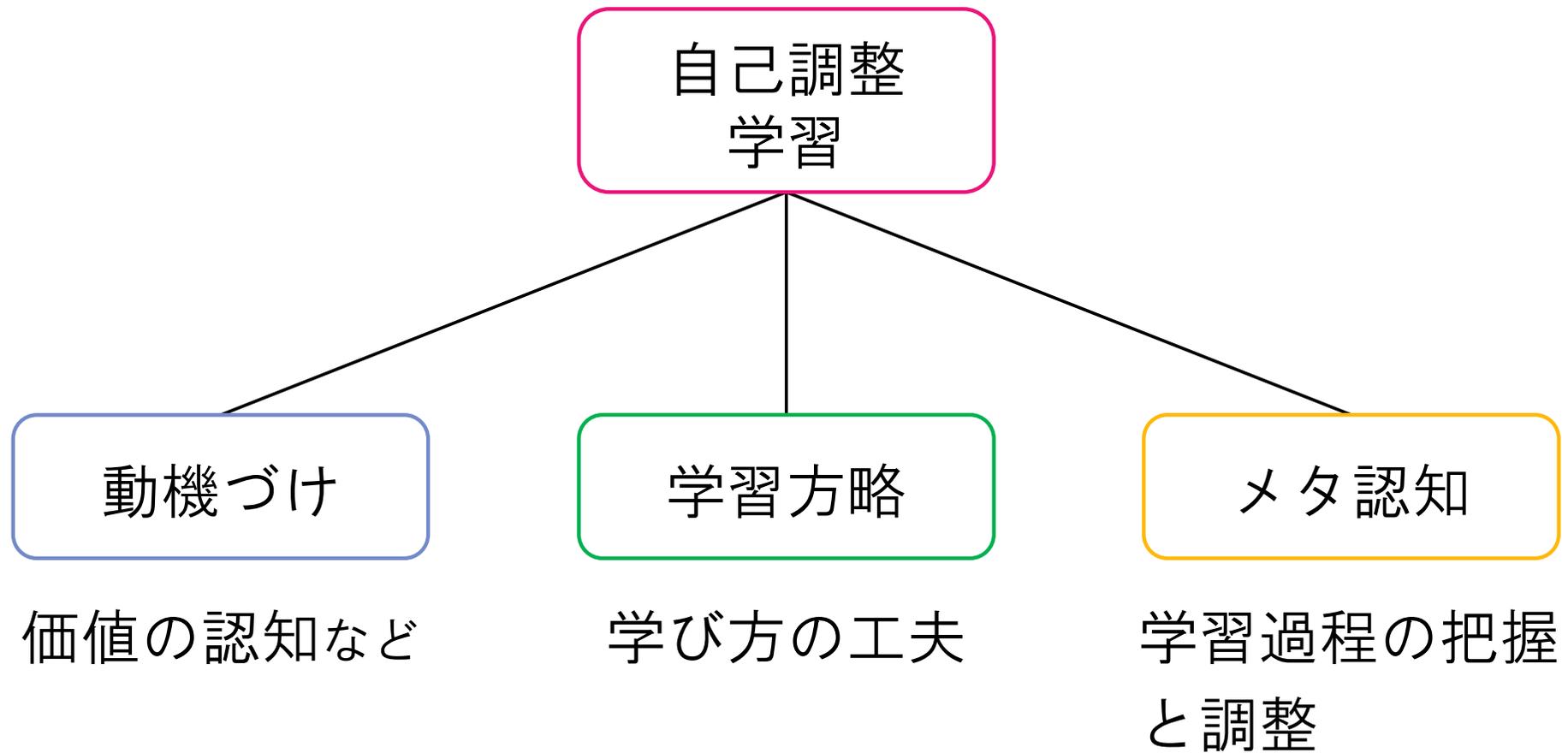
学びに向かう力，人間性等

主体的に学習に
取り組む態度

感性，思いやり
など

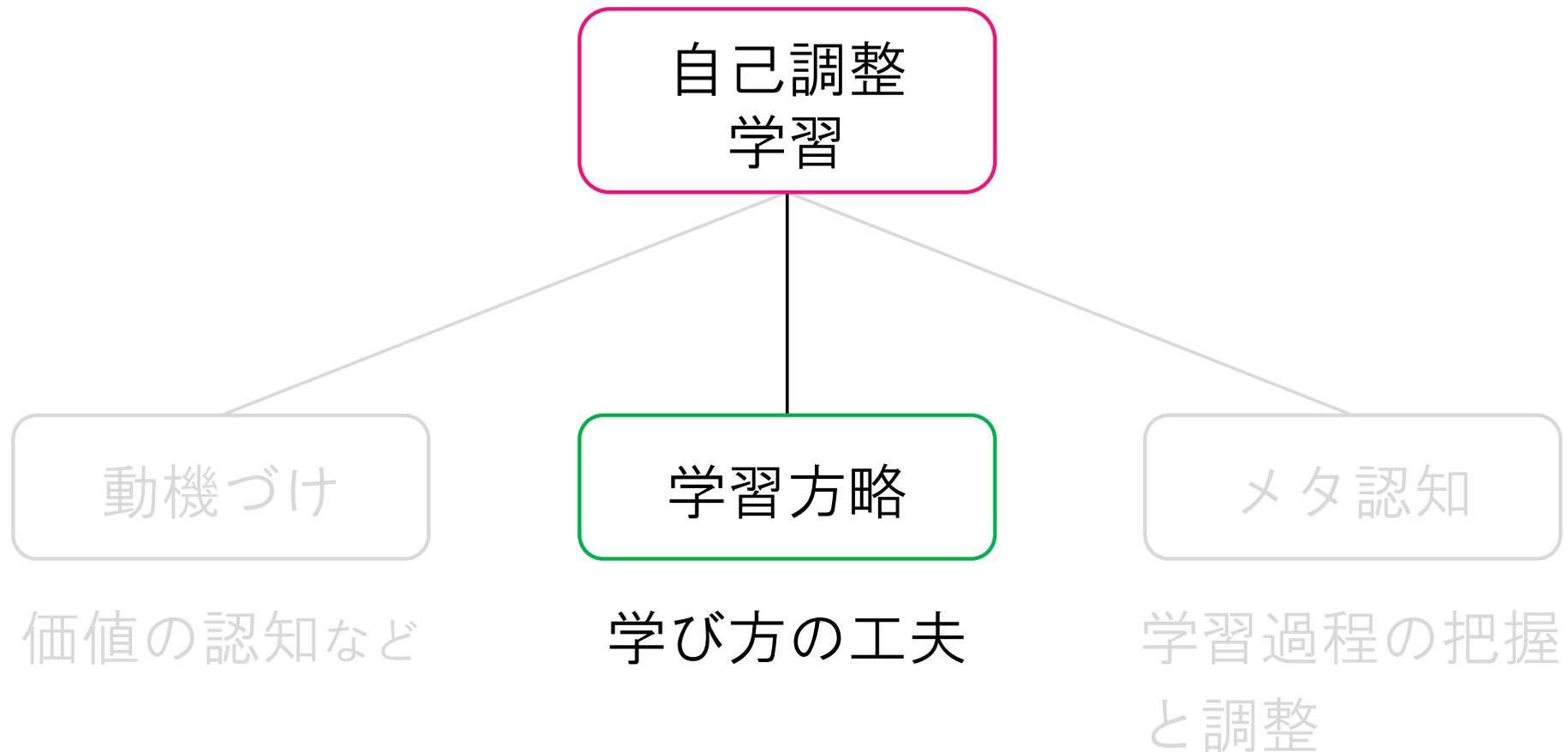
- 知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた 粘り強い取組を行おうとする側面
- 粘り強い取組を行う中で， 自らの学習を調整しようとする側面

自己調整学習を支える3つの要素



- 岡田涼 (2022). 日本における自己調整学習とその関連領域における研究の動向と展望—学校教育に関する研究を中心に— 教育心理学年報, 61, 151-171.

自己調整学習を支える3つの要素



- 岡田涼 (2022). 日本における自己調整学習とその関連領域における研究の動向と展望—学校教育に関する研究を中心に— 教育心理学年報, 61, 151-171.

学習方略の例

学習方略：学び方・勉強方法

反復方略	<p>単純に繰り返すことで覚える方略</p> <ul style="list-style-type: none">• 漢字や英単語をひたすら書いて覚える• 何度も声に出して覚える
精緻化方略	<p>既有知識と結びつけるなどして、覚えやすくする方略</p> <ul style="list-style-type: none">• 新しい学習内容を、自分の知識と関連させて考える• 理解しにくい用語は、自分が分かる言葉に置き換える
体制化方略	<p>学習内容が相互に関連を持つようにまとまりをつくる方略</p> <ul style="list-style-type: none">• 学習した内容同士の関係性を図や表の形にしてまとめる• 歴史上の出来事や物質の性質など、学習した内容をノートにまとめる

生徒はどのような方略で学習しているか

■ 中学生715名と専門家4名を対象とする調査

▶ 使用の程度

- 「期末テストのために行った勉強方法にどの程度あてはまるか」について5段階で評定

▶ 学習有効性の認知

- 「期末テストの範囲のような学習内容を理解して“よくわかった”とか“納得できた”などと思えるようになるためにどの程度有効だと思うか」について5段階で評定

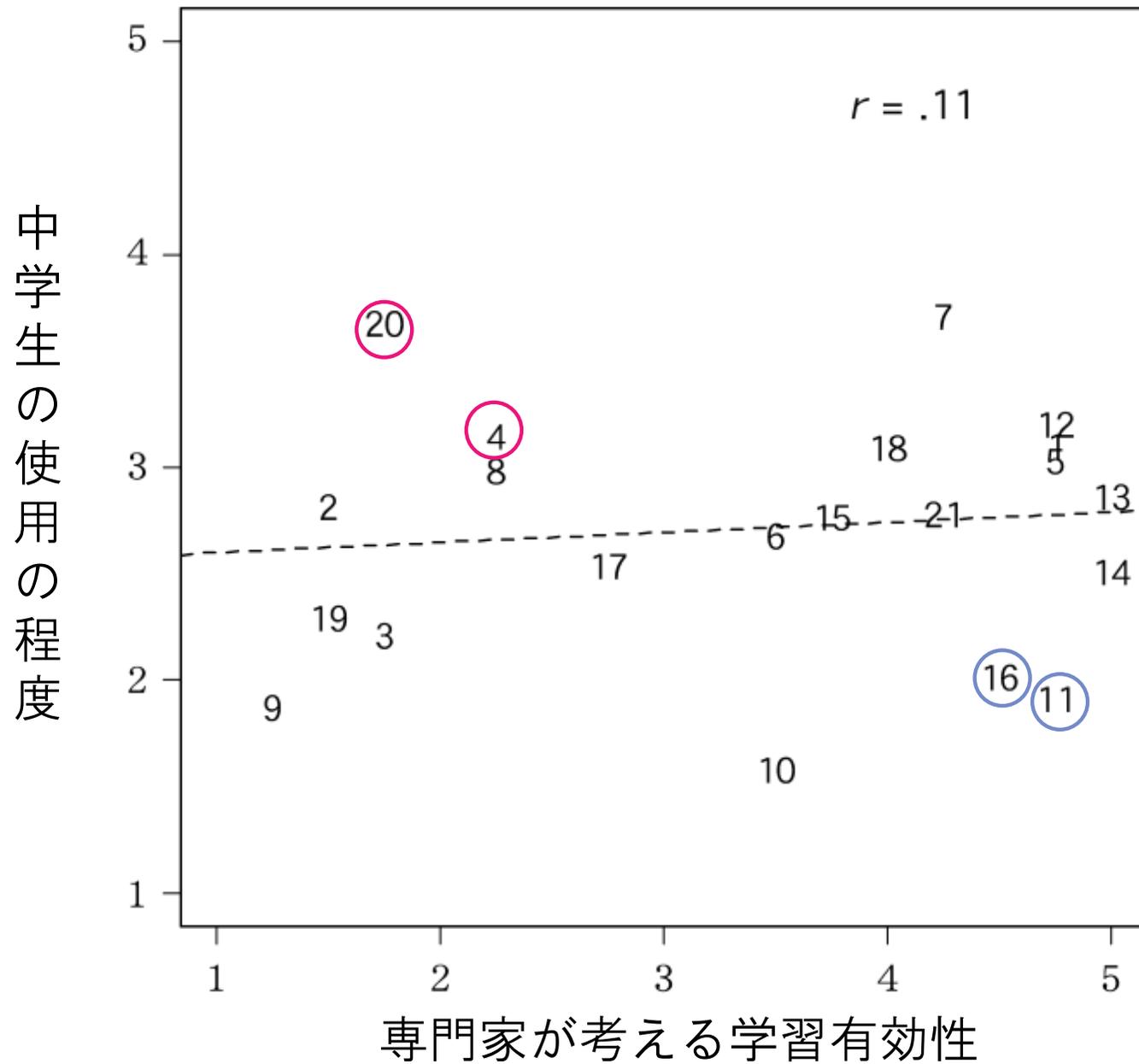
調査項目

1. 教科書，ノート，参考書などを読むとき，「どうして，こうなるのか」とか「なぜ，こういうふうに解いたらいいのか」などということについて考える
2. 教科書，ノート，参考書などに書いてある重要語句，重要事項，定理，公式などを，ノートやカードなどに書き写す
3. 教科書，ノート，参考書などの全部（または，ほとんど）を，ひたすら読む
4. 重要語句，重要事項，定理，公式などのところにしばって，教科書，ノート，参考書などに目を通す
5. 教科書や問題集の問題を解いてみて，間違えたり，わからなかったりしたところを，もう一度解いてみる
6. 教科書や問題集の問題を解いてみて，わからなかったとき，すぐに答えを見ずに，時間がかかっても，なるべく自分で解こうとする
7. 教科書や問題集の問題を解いてみる
8. 教科書や問題集の問題を解いてみて，わからなかったときには，すぐに答えを見る
9. 教科書や問題集の問題を読んだ後，自分で解こうとはせずに，最初から答えを見て，やり方を覚えようとする
10. 自分で問題を作る

調査項目

11. 自分がやった方法や，教科書や問題集の答えに書いてある方法以外にも解き方がないか，考える
12. 教科書や問題集の問題の答えを見るとき，「どうして，こうなるのか」とか「なぜ，こういうふうに解いたらいいのか」などということについて考える
13. 教科書や問題集の問題を解いてみて，間違えたとき，「なぜ，間違えたのか」とか「これから，間違えないようにするためには，どうしたらいいのか」などということについて考える
14. 学習する内容の間の関係に注目しながら勉強する
15. (今回のテスト範囲の内容と関連する) 前に習ったことについて復習する
16. 自分の身の回りにあるものや，日常生活と結びつけながら勉強する
17. 「覚えられた」とか「理解できた」と思っても，そこで終わりにせず，くり返し勉強する
18. わからないところや難しそうなところを中心に勉強する
19. わからないところや難しそうなところは，とばして勉強する
20. テストに出そうなところを中心に勉強する
21. 「どういう勉強方法がいいのか」ということについて考える

結果—専門家が考える有効性と中学生の使用度—



結果—専門家とのズレが大きい方略—

- 意味理解をする上で有効だが，生徒があまり使用していない方略
 - 11：自分がやった方法や，教科書や問題集の問題の答えに書いてある方法以外にも解き方がないか，考える
 - 16：自分の身の回りにあるものや，日常生活と結びつけながら勉強する
- 意味理解をする上で有効ではないが，生徒がよく使用している方略
 - 4：重要語句，重要事項，定理，公式などのところにしぼって，教科書，ノート，参考書などに目を通す
 - 20：テストに出そうなところを中心に勉強する

「テストのための学習」という問題

■ 学習とテストの逆転現象

- テストは本来、学習改善や学習意欲を促すためのもの
⇔ テストのための学習に陥ってしまっている

■ 学習行動に対するテストの弊害

- テストが学習内容を狭めている
- 目先のテストを乗り越えることを目的とした、その場しのぎの学習が助長されている

- 藤澤伸介 (2002). ごまかし勉強 上—学力低下を助長するシステム— 新曜社
- 長尾彰夫 (2000). 教育評価のポリティックス分析—総合学習の評価を手がかりに—
長尾彰夫・浜田寿美男 (編) 教育評価を考える—抜本的改革への提言— (pp.40-70) ミネルヴァ書房

問題意識は古くから

生徒ニ起コルモノト申セバ（中略）日常ノ業務ハ徒ラニ試験ノ為メニ制セラレ彼レモ試験此レモ試験ト云フテ実地応用ナドノコトハ少シモ頓着セス唯々試験サヘモ能ク出来レハソレテ善キモノト思ヒ甚シキハ定時試験近クニナリテ始メテ目ヲ覚マシタ様ナ心地シテ朝晩汲々スルモノアリ或ハ会読トカヲ始ムルアリ（中略）千差万別種々色々ノ手段ヲ以テ一時ノ僥倖ヲ得ントスルモノアリテ之ガ試験トナレバ常ニ劣等ナルモノモ偶々優等ノ成績ヲ見ルニ至リ常ニ優等ナルモノモ劣等ニ陥ルコトアリ何ノ競争處力却テ甲ハホコリ乙ハウラムニ至ル

『福島県私立教育会雑誌』四五号（1889年）

テストへの適応

- テストの弊害に関する問題意識は古くから存在
 - 対策は講じられてきたが、同じ問題が繰り返し指摘されてきた
 - 背景に、学習者の「テストへの適応」
(評価基準や意図を推察し、学習行動を変容)
例) 「六角形の内角の和を求めよ」
→ 「六角形の内角の和がなぜ 720° になるか説明せよ」

学習者の動機づけや認識を変容させることも重要

動機づけに関する問題

■ 達成目標

➤ 達成課題場面において個人が志向する目標

マスタリー目標	パフォーマンス目標
<ul style="list-style-type: none">• ものごとを理解する, 技能を向上させるなど, 自分の能力を伸ばすことが目的• 困難を克服するために努力することに価値が置かれる	<ul style="list-style-type: none">• 能力に関するよい評価を得る, あるいは悪い評価を避けることが目的• より少ない努力で成功することに価値が置かれる

テストに対する認識に関する問題

テスト観：テストの実施目的・役割に対する認識

改善

学習改善に活用するためのもの

誘導

学習計画を立てるのに役立てるためのもの

強制

教師が学習を強制させるためのもの

比較

教師が生徒を比較するためのもの

- 鈴木雅之・西村多久磨・孫媛 (2015). 中学生の学習動機づけの変化とテスト観の関係 教育心理学研究, 63(4), 372-385.
- Suzuki, M., & Sun, Y. (2017). Effects of students' perceptions of test value and motivation for learning on learning strategy use in mathematics. In E. Manalo, Y. Uesaka, and C. Chinn (Eds.) *Promoting Spontaneous Use of Learning and Reasoning Strategies: Theory, Research, and Practice for Effective Transfer* (pp.123-139). Routledge.

「テストのための学習」からの脱却に向けて

- 学習の目標やテストの実施目的に納得してもらうためには、以下の点を明確にすることが重要
 - 評価の意図・基準
 - どのように理解度を評価しているのか
 - 学習の状況
 - 目標と達成度の間にはどのようなギャップがあるか
 - どのような成長・改善があったか
 - 学習改善のための方策
 - 何をどう学習すればよいか

- Hattie, J., & Timperley, H. (2007). The power of feedback. *Review of Educational Research*, 77, 81-112.
- 鈴木雅之 (2011). ルーブリックの提示による評価基準・評価目的の教示が学習者に及ぼす影響—テスト観・動機づけ・学習方略に着目して— *教育心理学研究*, 59(2), 131-143.
- 鈴木雅之 (2012). 教師のテスト運用方法と学習者のテスト観の関連—インフォームドアセスメントとテスト内容に着目して— *教育心理学研究*, 60(3), 272-284.